

社会科学習指導案

指導者 佐藤 公一

- 1, 日 時 平成22年11月2日(火) 5校時
- 2, 学 級 2年4組 男子18名 女子18名 計36名 第3校舎2階
- 3, 主 題 第3編第1章 世界から見た日本のすがた
2. 世界と日本の生活と文化 ②日本の伝統的な生活

4, 主題について

(1)教材について

学習指導要領では「世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を追求し、我が国の国土的特色を様々な面から大観させるとともに、地域の規模に応じて、また、地域間を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。」となっている。

それを受け第3編第1章「世界から見た日本のすがた」では、「自然環境」「生活と文化」「人口」「資源と産業」「地域間の結びつき」の5つの世界的視野から見た観点で日本の特色を追求していく活動となっている。この「2. 生活・文化から見た日本の地域的特色」については、世界的視野から見て日本は比較的豊かであること、伝統的な生活文化は変容していることなどを大観させるとともに、国内では各地に特色ある生活・文化がみられることを学習する。

生活や文化について、世界と比較するときや国内での地域的特色を探る学習では、具体的な事物をとらえながら考察していく展開となることが多い。その際、作業や発表表現や話し合いなどにも力を入れていきたい。

(2)生徒について

社会科の学習に対する興味関心はそれほど高いとは言えない。一部の生徒に頼って課題解決に取り組もうとする姿勢がみられる。教研式学力検査(NRT)の結果をみると、基本的な知識はおおむね定着しているが、歴史などで分野によっては苦手な面も見られる。地理的分野は苦手と感じている生徒が少ないので、多くの生徒が取り組みやすい。しかしその反面、さまざまな資料の読み取りから全体像や因果関係をとらえられる生徒は少ないのも事実である。

授業においては、具体的な事物をとらえながらそれらを比較し考察していく展開していくが、その中で生徒同士が相互にかかわりあうことによってそれらの事実から全体像や因果関係をとらえられるような授業を目指したい。

(3)指導について

「日本の伝統的な生活」は、世界的視野から見るために、ギリシャ、エジプトと我が国の住居の比較を行う。食事では、伝統的なドイツの食事と我が国の米食中心の食事の比較を行う。住居と食生活はその国の気候と大きく関連が強く、我が国の温暖で湿潤な気候を理解する上で非常に好例である。その上で、日本国内の特色ある郷土料理を調べ、地域間の類似性や傾向性に着目して話し合い、地方の差違や特色や風土を理解し、さらに日本の共通性も考察していく展開としたい。

5, 指導と評価の計画

(1) 指導計画

- ①世界各地の伝統的な生活・・・1 時間
- ②日本の伝統的な生活・・・本時
- ③変化する生活・・・1 時間
- ④古都(京都・奈良)に見る伝統文化・・・1 時間
- ⑤独自の生活文化をもつ沖縄・・・1 時間
- ⑥発展イスラム教とくらし・他の宗教・・・1 時間

(2) 評価の計画

〈別紙〉

6, 本時について

(1) 本時の目標

日本の伝統的な家屋や伝統食・郷土料理はその地域の風土との関わりが深いことを指摘できる。

(2) 本時の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	・主体的に作業や話し合い活動に取り組む。
社会的な思考・判断	・諸外国とわが国の住居や食事についての比較から、それぞれの気候の違いを指摘できる。 ・日本国内の地域の郷土料理から、地域の特色・風土と日本全体の共通性を考察し指摘できる。
資料活用の技能・表現	・作業シートに調べた事柄をまとめ、その内容を発表できる。

7, 本時指導の構想

(1) 指導構想

日本の伝統住居について、ギリシャ・エジプトの住居と比較することによって、日本の住居の材料である木材や屋根の形状に特徴があることに注目させ、降水量が多いことを理解させる。食事に関してもドイツとの比較によって、ドイツも日本もその土地や気候に適した食料生産がなされていることをおさえさせる。

また、地域的特色について、各地の郷土料理の調べることを通して、その土地や気候に適した農産物をいかして材料を得ていることや海に囲まれているので魚介類がふんだんに使われていることを理解させたい。

(2) よく考え伝え合う活動について

作業や発表表現・話し合いに力を入れるために、外国とわが国との家屋住居と食事の比較は時間的にもスムーズに進め、後半の時間を保障したい。

話し合い活動は学級全体で討議していきたいが、形態をグループないし少人数で行い各自が必ず発言するような機会を設定する。特に個人によってとらえ方にばらつきがでることも多いので適切なステップを設定する等の配慮が必要と考える。

8, 本時の展開

段階	過程	学 習 活 動	よく考え伝え合う活動を通して ねらいにせまるための手立て	
			評価の視点	指導上の留意点
導 入	15 分	1 ギリシャ・エジプト・日本の住居の特徴からそれぞれの気候と関連が強いことを理解する。		1 発問と生徒の発言,そして板書と生徒がプリント記入する時間を確保しつつ,スムーズに展開する。
		2 ドイツと日本の食事の特色からそれぞれの気候と農業との関連が強いことを理解する。		
3 「日本各地の郷土料理からその地域の風土を考えよう」				
展 開	30 分	4 グループにわかれ各地の郷土料理について調べプリントにまとめる。 5 発表 6 日本各地の郷土料理を発表する。話し合い(グループ毎) 使われている材料から地理的条件・風土(気候, 臨海・内陸など)がどうか予想する。 7 各地の郷土料理に類似性や傾向性など共通する項目をあげ, 地理的・気候的な特色・風土を考察する。	4 作業(分担, 調査, 記入, まとめ)主体的に作業する【 関心意欲態度 】 5 発表者が発表(板書と口頭発表)【 技能・表現 】 6 積極的に話し合いに参加しているか, 自分の意見をもち発言しているか(机間巡視)【 関心意欲態度 】 7 話し合い・発言【 思考・判断 】	4 各グループに複数地方の郷土料理を担当させ, 資料で調べる。 5 発表を聞く態度にも配慮する。また, 材料名が必ずわかるように発表する。 6 司会者等の係分担を明確にする。 7 地域の特色・風土と日本全体の共通性をしっかり把握させるようすすめる。
終 末	5 分	8 まとめ 住居や食事, 郷土料理はそれぞれの地理的な条件・風土が大きく影響すること 9 まとめの発表	8 プリント記入【 思考・判断 】 9 発表【 技能・表現 】	8 文章でまとめるようにする。キーワード「風土」 89最後にプリントを回収し評価する。